

レッドデータブックに掲載される絶滅のおそれがある野生生物の一覧をレッドリストと言います。私たちの身近な環境と甲賀市のレッドリストに載る生き物の関係について紹介します。

### 田んぼの環境とレッドリストの生き物

春になり、田んぼに水が入り始めます。急に現れた水辺には、いつの間にかアマガエルなどカエルの仲間、ゲンゴロウ類など水生昆虫もたくさん集まっています。彼らは田んぼを、季節的に現れる湿地として利用しているのです。

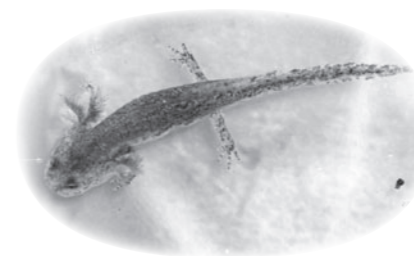
しかし、よく観察すると、田んぼの生き物の種類や数が多い場所と少ない場所があります。メダカやドジョウなど魚がすむ田んぼと田んぼがあり、アマガエルはどこの田んぼにもいますが、ニホンアカガエル、ナゴヤダルマガエルがいる田んぼは限られます。

これは田んぼの立地や環境が違うためです。レッドリストの種が多くすむ田んぼには、周囲の水路などに、冬でも水が十分にたまっていて、水底や土手に植物が生えています。田んぼに水が無い時期でも、近くの水溜まりを使えることが重要だったのです。

また、田んぼの周りに雑木林があると、森からの湧き水が四季を通して水路を潤しており、森と水辺を行き来して暮らすカスミサンショウウオがすんでいます。



生き物が多い田んぼ



カスミサンショウウオ幼生 (絶滅危機増大種)・福井芳郎氏撮影



メダカ (絶滅危機増大種)

#### 問い合わせ

みなくち子どもの森自然館  
☎63-6712 ☎63-0466

#### ▼甲賀衆の時代を物語る油日神社



それが甲賀にとって中世とはどういう時代だったのでしょうか。これまで出されてきた郡志や各町史では、各地に荘園が開かれ、そこに武士が台頭し、やがて武力と知恵によって地域を支配していく、その活躍の姿を中心に描いてきました。今回の市史でもこれを踏襲しますが、近代以

「甲賀市史」は、本年度第二巻の中世編を刊行します。中世とは平安時代末期から戦国時代の終わりまで約400年におよぶたいへん長い時代で、貴族社会が崩れて武士が台頭、やがて幕府が成立し新時代が到来するものの戦乱はやまず、下克上の戦国時代へと流れ込む、厳しく痛ましい反面ダイナミックで魅力的な時代との印象があるのではないのでしょうか。

### 第二巻「甲賀衆の中世」の刊行にむけて

## 47 市史の小徑

降の呼称である「甲賀武士」の語は用いず、実際に当時の人々が使っていた「甲賀衆」の名で呼ぶこととし、副題も「甲賀衆の中世」と名付けました。

もちろん中世の甲賀は「甲賀衆」の活動だけで語り尽くせるものではありませんが、彼らを中心にこの時代に培われた社会の仕組みや文化が、日ごろ私たちが最も「甲賀らしい」と感じているもののルーツであることを考えれば、多くの方に関心を持っていただきたい時代だと思います。昨年刊行した第七巻「甲賀の城」の内容とどう響きあうのかも興味の持たれるところですので。本欄でもこれからその魅力を紹介していきます。どうぞご期待ください。

#### ◎既刊好評販売中

【販売場所】(水口町)ブックショップ ヤマカワ・ブックストア・TUTAYA Aさんぽうどー・水口歴史民俗資料館 (土山町)ウエノ・道の駅あいの土山・新名神土山サービスエリア案内所・土山歴史民俗資料館(甲賀町)かふか生涯学習館(甲南町)ウイング甲南店・市史編さん室(信楽町)大玉堂谷川書店・信楽伝統産業会館・信楽中央公民館

\*事前予約申込の方は指定の施設でお引き換えください。

#### 問い合わせ

歴史文化財課 市史編さん室  
☎86・8075 ☎86・8216

\*詳しくは「甲賀市ホームページ」→暮らしのガイド→教育文化→市史編さんをご覧ください。

## こうかまちかど 特派員 のページ

こうかまちかど特派員



むらやまとしこ 村山 敏子



▲▼絵手紙作りに挑戦



そんな介護者の方に、このサロンをご利用されての声をお聞きすると、  
・交流がなく閉じこもりがち  
・辛いことを聞いてもらっていると気が明るくなる。  
・介護していると閉じこもり、どこにも行けなくなり、気が滅入ってしまったり、そんな時、このサロンに参加して聞いたり、聞いてもらったり、理解し理解され本当にすっきりした。考え方が変わって介護に前向きに取り組めるようになった。どうしてそんなに明るく元気にしていただけるのかと聞か

れることもある。  
・介護の方法など情報交換できるなど、介護者サロンに来るようになって自分らしさを取り戻し、介護を前向きにとらえるようになったそうです。  
私がお出会った方々は、皆さんタフで明るい方ばかりで、このサロンがとても意義深いものであると痛感しました。そして今、介護で悩んでおられる方にもぜひこのサロンにお越しいただきたいと思いま



▲お食事会での情報交換

## 悩みを共有、前向きに取り組める仲間づくり

介護は人を支えることを目的とした生きるために必要な営みだと思えます。でも、時にはやりたいことを諦めなければならず、ストレスをため込むこともあるようです。今回は、そんな介護をされる方々が介護の疲れをいやし、気力を養う場所としておられる介護者サロン取材しました。

介護者サロンは介護の悩みを共有し、介護に前向きに取り組むために知恵を出し合っていく仲間づくりをめざして、行政および社会福祉協議会の支援のもと、平成19年に発足しました。  
茶話会、親睦会、講習会、フラワーアレンジメント、施設見学など、市内全域や各支部でそれぞれ特色を生かして活動されています。  
私は今回、甲賀支部と甲南支部の方からお話を聞かせていただきました。介護歴はさまざま、長い方では20年。お話を聞くと、私が想像していた以上に厳しい現実が直面し、苦悩があったことを知りました。

そんな介護者の方に、このサロンをご利用されての声をお聞きすると、

・交流がなく閉じこもりがち

・辛いことを聞いてもらっていると気が明るくなる。  
・介護していると閉じこもり、どこにも行けなくなり、気が滅入ってしまったり、そんな時、このサロンに参加して聞いたり、聞いてもらったり、理解し理解され本当にすっきりした。考え方が変わって介護に前向きに取り組めるようになった。どうしてそんなに明るく元気にしていただけるのかと聞か

れることもある。  
・介護の方法など情報交換できるなど、介護者サロンに来るようになって自分らしさを取り戻し、介護を前向きにとらえるようになったそうです。